

顔認識技術の有用性と問題点

- ①犯罪率の低下(有用性)
- ②人種間の判別差(技術的問題)
- ③世間の反応(倫理的問題)

①犯罪率の低下(有用性)

- NEC社の顔認識技術を活用した防犯システムを導入したインド・スーラト市で

犯罪率が27%低下

引用元:<https://hbol.jp/183129>

- 渋谷の書店で万引き抑止に導入される予定

引用元:<https://jp.reuters.com/article/idJP2019050401001328>

②人種間の判別差(技術的問題)

- 有色人種は白人に比べて**正確性が低い**

①顔認識技術による黒人男性誤認逮捕の例も

参考:<https://www.wired.com/story/photo-algorithms-id-white-men-fineblack-women-not-so-much/>

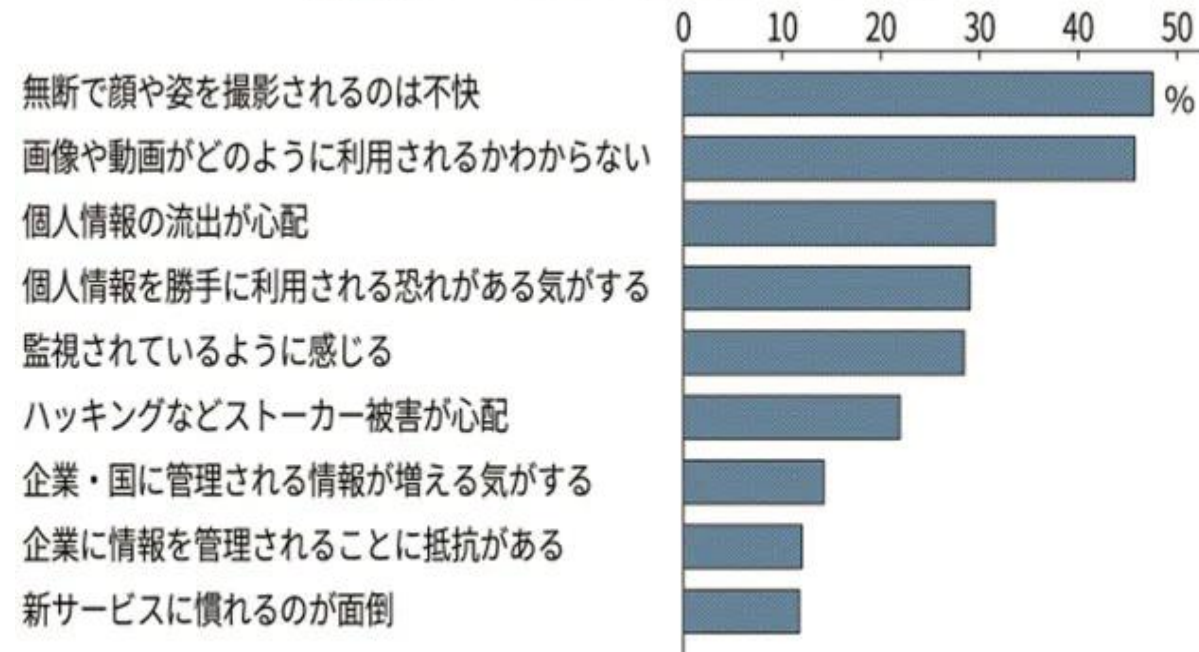
②黒人がゴリラとして認識された例

参考:<https://wired.jp/2018/01/18/gorillas-and-google-photos/>

③世間の反応

- クレストの調査によると顔認識技術によるサービスに抵抗感がある人は約6割
→ プライバシー保護との両立が必要

顔認証サービスに抵抗がある理由



(注)顔認証に抵抗がある324人が対象、複数回答可
(出所) クレスト

出典: <https://www.nikkei.com/article/DGXMZO55034980Q0A130C2000000/>